

開創千三百年記念 本尊秘仏薬師如来 特別御開帳

11月3日(祝) 国重文本尊秘仏薬師如来御開帳(本堂)

午前 御開帳法要

午後 狛犬(一対) 北名古屋市文化財指定記念 講演会

講師：伊東史朗氏 和歌山県立博物館長・京都国立博物館名誉館員

会場：北名古屋市高田寺学習等供用施設

11月4日(金) 国重文本尊秘仏御開帳(本堂)

午後 法話：上野良明大僧正 比叡山延暦寺長騰・叡山講福聚教会主査

11月5日(土) 国重文本尊秘仏御開帳(本堂)

11時 天台宗祖師先徳鑽仰大法会東海教区特別授戒会(観品殿)

伝戒大和上：総本山延暦寺 堀澤祖門大僧正猊下

11月6日(日) 国重文本尊秘仏御開帳(本堂)

午前 大般若転読法要並びに薬師護摩供祈願法要

後援：愛知県・愛知県教育委員会・北名古屋市・北名古屋市教育委員会
中日新聞社・名古屋鉄道(株)・尾張中央タイムズ社・中日長栄社

医王山高田寺

北名古屋市高田寺383 ☎0568-21-0887

名鉄犬山線「西春」駅下車県営名古屋空港行きバス「高田寺北」を下車して南へすぐ

お問い合わせ先：医王山高田寺(医王山高田寺開創千三百年記念事業実行委員会)



千三百年前から人々を魅了し続ける高田寺の薬師如来像

旧国宝(現国重文)の秘仏を五十年ぶりに公開

「見る人の心によって変わる」と言われる慈愛に満ちた表情や、生命力を感じさせる衣の模様が特徴の仏像

高田寺の薬師如来像

高田寺の薬師如来像は、千三百年にわたり人々を魅了し続けてきた、霊験あらたかな仏像です。高田寺本堂の本尊、薬師如来像は、養老四年(七二〇)、高田寺創建当時の仏といわれており、旧国宝、現在は国の重要文化財に指定されています。

八世紀前半頃に唐で行われた当時最新のインド風密教尊像の形をもとにして、行基が造像したものと考えられます。作風は神秘的なムードを持ち、拝者の心はそかなムードに包まれ、霊験のあらたかな彫像であることを実感します。現在は秘仏とされ、五十年ごとに御開帳を行います。

お顔は卵型に近い長顔で目は細く、眉端は下がらず、口元は強く結び、神秘的な表情をしています。衣の左脇下に見られる縦長の渦巻には、内面の大きなエネルギーを表していると考えられています。



江戸時代前期の仏師円空は、この薬師如来と対面して心を動かされ、生涯に十二万体の仏像を彫ると誓ったと言われています。



円空仏

高田寺には他に、薬師如来を守る役割の日光・月光菩薩(室町時代作)と十二神将(室町時代作)の



十二神将
(北名古屋市指定文化財)

新たな文化財を指定

令和4年、高田寺が所蔵する「木造狛犬」が北名古屋市指定文化財に指定されました。

名称 「木造狛犬」一対
製作年代 安土桃山時代
像高 阿形：49.1cm 吽形：47.5cm
材質・構造 ヒノキ材、寄木造

阿形(開口)と吽形(閉口)の一对からなり、上体をほぼ直立させ、両前肢を下に伸ばし、両後肢はあたかもしゃがむように座るといった独特のポーズをとっています。このような直立姿勢は、室町時代ごろから瀬戸地方を中心に盛んになる陶磁製の狛犬によくあるポーズであり、こうした陶磁製狛犬を木彫で製作された例として、きわめて珍しくかつ貴重な彫刻といえます。



和歌山県立博物館長・京都国立博物館名誉館員

伊東史朗先生

旧国宝高田寺の歴史

高田寺は、養老四年(七二〇)に行基が開創したと伝えられています。高田寺は壬申の乱(六七二年)の功臣、高田首新家の筋を引く一族の氏寺でした。高田首新家は大宝三年(七〇三)七月に没したらしく(『續日本紀』)、その子、



大黒天立像
(愛知県指定文化財)

像があります。さらに大黒天立像(愛知県指定文化財)仁王像・四天王像、円空仏などがあります。

首名が、父新家の菩提を弔って養老四年(七二〇)に建立し、行基がこの建立に際し関わったと考えられます。

本堂は旧国宝であり、現在は国の重要文化財に指定されています。旧国宝の指定理由に「尾張平野一の美建築といつてさしつかえない」とされた美しい建物です。建築様式から鎌倉末期から室町初期の建立と推定されます。



国重文 薬師堂本堂